常陸大宮市野口　「里山のたまり場　御前山」

子供たちに説明する小野瀬さん

趣ある風情豊かな御前山。今回ご紹介する「里山のたまり場 御前山」は「関東の嵐山」と呼ばれることでも名を馳せ、情緒あふれる那珂川大橋からほど近い自然豊かな山村にあります。この「里山のたまり場　御前山」は未来を担う子供たちに対し、自然豊かな里山の素晴らしさと、物を作る喜びや物を大切にする心を養う目的で2008年に開設されました。ちなみにこの場所は、代表を務める小野瀬武康さんの奥様のご実家。そしてその拠点となっている里山体験・交流館は、なんとかつては、たばこの乾燥場として実際に使用された納屋を改修したもの。現在では、それら活動拠点として、また地域のコミュニケーションの場として解放されているのだそうです。

たばこ乾燥場を改修した里山体験交流館

その一角には、地元常陸大宮市出身の絵手紙作家の作品をギャラリーとして展示、また昔の農機具なども当時そのままの姿で保存され、子供たちの関心を多く集めています。特に子供たちに大人気なのは、何と言っても手こぎ式の井戸。昔を知る大人たちにとってそれは決して珍しいものではありませんが、自然の素晴らしさを知る機会の少ない今の子供たちとって、手動で清水を汲み上げる井戸には関心が集中し、真夏などには汲み上げすぎて井戸水が枯れてしまうほど大人気を博しているのだそうです。

絵手紙の展示ギャラリー

子供たちに大人気の井戸

取材に訪れたこの日も、体験プログラムで収穫され泥の付いたままのサツマイモを、子供たちは歓声を上げながらその井戸で洗っていました。

大きなお芋が収穫出来ました

「子供たちの自然に接する姿、そしてそれを体験し喜ぶ子供たちの笑顔を見ることが本当にうれしい」と語る代表の小野瀬さん。この里山のたまり場を開設した理由をお聞きしたところ「少子高齢化はこの山村でもその傾向が顕著。その為、荒れる農地が増え環境面でもその影響は少なくない。子供たちの健全育成にも寄与でき、山村の活性化にも役立てることが出来るならと始めました」とのこと。竹細工の指導などを担当し、共に運営を進める遠藤康さんも「続けていくことにより子供たち成長を実感できますね。またそうすることで自分たちも生きがいを感じ、自己啓発につながっているんだなと実感出来る。自分たちも楽しんでやれることが何より」と屈託なく笑います。

遠藤さん（左）と小野瀬さん（右）

四季折々の自然に囲まれ、感性が磨かれていくのは決して子供たちだけでは無さそうですね。そしてこれからもこの「里山のたまり場　御前山」からは、子供たちの歓声が響き続けることでしょう。

いばらきの社会福祉
Social Welfare of Ibaraki

発行者／社会福祉法人 茨城県社会福祉協議会
〒310-8586 水戸市千波町１９１８
電話　029(241)1133(代)
FAX　029(241)1434
http://www.ibaraki-welfare.or.jp/
E-mail　ibashakyo @ibaraki-welfare.or.jp

携帯電話で読み取るだけで簡単に「茨城県社協HP」にアクセスできます。

PRINTED WITH SOY INK　環境に配慮して再生紙と大豆油インキを使用しています。